



令和5年2月1日
目黒区立菅刈保育園長

2月の園だより

一年の中で最も寒い時期です。先日、園庭のあらゆる所に氷が出来ていて、子どもたちの目はきらきら輝いていました。触りすぎて手が冷たくなってしまい、テラスのコンクリートの上に手をのせて「あたたかいよ」といっている姿に子どもならではの発想を感じる事が出来ました。

園庭では、異年齢で遊ぶ姿が多くみられるようになってきました。そんな中、タイヤとお風呂の椅子とマットを使用して長い道を4歳児クラスの子たちが作っていました。タイヤを高く積み上げジャンプする所や、タイヤとタイヤの間を広くして渡り“これは簡単だ”と思うとさらに広くして難しく形を変えていきます。それを見ていた2歳児クラスの子が「やりたい」と保育士に声をかけやり始めました。最初は殆ど保育士と手を繋ぎやっていた。時には泣きそうになっているので「おしまいにする」と聞くと首を横にふります。何度も何度も繰り返す内に手を繋ぐ回数が減ってきました。そして自分から「もうなかないよ」と保育士に言い切り真剣な表情で取り組んでいました。高い所から一人でジャンプした時には“出来た”と嬉しそうな表情をしていました。側で見ていた4歳児クラスの子が「すごいじゃん」と声をかけてくれました。きっと大好きなお兄さんに声をかけられ嬉しさも倍増したのではないかと思います。見て大人が声を掛けなくて良かったと思う瞬間でした。“やってみよう”という気持ちを育みながら姿勢や動きを調整したり試したりしながら体験したことで、自分のからだを知り“獲得しつつある力”を実感していくことが大切であると思います。“からだを動かすこと”“挑戦すること”を楽しみ、“ちょっと頑張ればできる”という気持ちが将来に繋がる力となっていきます。今後も異年齢での関わりの充実が図れるよう保育していきたいと思っています。

《2月の行事予定》

節分	◎クラス懇談会◎
身体計測 (3. 4. 5歳児クラス)	0歳児クラス
身体計測 (0. 1. 2歳児クラス)	2歳児クラス
お店屋さんごっこ(3. 4. 5歳児クラス)	1歳児クラス
中旬 避難訓練	4歳児クラス

保健室から ~感染症予防には手洗いが基本です~

4歳児クラスで手洗いの大切さについて健康教育を行いました。手洗いチェッカーのローションを手に塗ってお散歩に出かけ、帰って手洗いを済ませた手をブラックライトの光に当ててみると、手が白く光っています。洗い残しがあるとブラックライトに反応し、白く光る仕組みになっています。「手を洗ったのに、こんなにばい菌が残っている」とびっくりしたようで、その後は念入りに手洗いしていました。

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の感染が増加しているとのことです。冬は手洗いが雑になりやすいので、手洗いの場面(食事前やトイレの後)では意識して見ていくようにし、丁寧に手洗いすることが身に着くよう声かけていきます。



0・2・4歳児の子どもたちの好きな遊びの様子をご紹介します

『おかいもの』 0歳児クラス(つぼみ組)

鞆を持って歩いていた子に「ドーナツ食べたいなあ。お店でドーナツ買ってきてくれる」と声を掛けると（買ってくるね）とばかりに保育士の目を見ています。「買いに行ってくれるのね、ありがとう」「行ってらっしゃい」と見送ると手を振り、鞆を下げてドーナツを並べて売っている保育士の所へ向かいました。「いらっしゃいませ。どのドーナツにしますか」と声を掛けられ、（これと、これと）欲しいドーナツを次から次へと鞆へ入れていきます。「先生に渡してね」と言われると、保育士の元へ戻り鞆の中を見せています「わあ、おいしそうだね。たくさん買ってくれたのね」と言われて嬉しそうに二人の保育士の元を行き来していました。その楽しそうな様子を見てドーナツ屋さんには行列が出来ました。こんな風に少しずつやり取りができるようになってきた子どもたちです。



『みんなでじゃれつき遊び』

2歳児クラス(ひまわり組)

大きな厚手の布を広げると“じゃれつき遊び”が始まると分かって、どの子も一目散に布の上に乗ってきます。10人くらいの子もたちが布の上に座ると「早く出発して」とわくわくした顔です。保育士が二人で布をひっぱったりぐるぐると回したりすると、体が倒れそうになるのを友達と笑い合い、隣の人とぶつかって触れ合う面白さを感じて楽しんでいます。また、子どもたちがマットの上に寝転がり大根などの野菜になりきります。保育士が足を持って「うんとこしょ、どっこいしょ」と大きなかぶのお話のように抜こうとすると、マットの端をつかんで抜かれないようにグッとこらえます。スポンと抜かれることがとても面白くて「もう一回」と、たくさんの野菜たちがマットの上で横になって待っています。友達や保育士と一緒にじゃれついて笑ってはしゃぎ合うことで心も体も発散できリフレッシュできます。引き続きいろいろなアイディアで遊びを楽しんでいけるようにしたいと思います。



『友達と育ち合う』

4歳児クラス(うさぎ組)

鬼ごっこの中でも、子どもたちのブームは氷鬼です。鬼決めでは、最初は「ぼくが」「わたしが」と平行線だった話し合いが、「じゃあ、じゃんけんするのはどう」と、じゃんけんになり「〇〇ちゃんが勝ったから鬼ね」と決まっていきます。氷鬼を始めたばかりのころは、タッチされると泣いてしまったり、タッチされても固まらずに逃げてしまったりと色々な姿がありました。しかし、何度も経験を重ねていくうちに、ルールを守らない友達がいると「タッチしたのに何で固まらないの」と友達同士で伝え合ったり、タッチされても友達が助けてくれる遊びの楽しさを知り、今では氷鬼が子どもたちの大好きな遊びの一つになりました。友達と一緒に遊び、思いを伝え合う中で、色々な気持ちを味わい、気付き、育ち合う子どもたちです。これからも友達と遊ぶ楽しさを存分に感じながら、成長し合う姿がとても楽しみです。

